氏　　名	横溝　珠実
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第６９４５号
学位授与の日付	令和５年　９月２５日
学位授与の要件	保健学研究科　保健学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文の題目	Collaborative support for child abuse prevention: Perspectives of public health nurses and midwives regarding pregnant and postpartum women of concern （子ども虐待予防連携：保健師と助産師が捉えた気になる妊産婦の様相）
論文審査委員	教授　小野　智美　　教授　斎藤　信也　　准教授　加澤　佳奈

学位論文内容の要旨

本研究は児童虐待予防の視点から、保健師と助産師が捉えた「気になる妊産婦の様相」を検討することを目的とした。対象者は、岡山県内の市町村保健センターおよび産科医療機関に勤務する経験 5 年以上の保健師 10 名と助産師 10 名である。データは半構造化面接により収集し、質的記述的に分析した。保健師と助産師に共通して捉えられた「気になる妊産婦」の様相として、育児への困難さがあることや複数のリスク要因を合わせもつという点が明らかとなった。また保健師は、妊産婦の生活背景や暮らしに着目し、安定した生活のなかでの育児を見据えている点に特徴をもち、助産師は妊産婦自身の健康状態や産後生活を視野に入れた胎児・児への養育スキルに着目している点が特徴として明らかになった。今後はさらに両者の視点の特徴を互いにどのように理解し、支援につなげているのかを明らかにし両者の効果的な連携のあり方を検討することが必要である。

論文審査結果の要旨

本論文は児童虐待防止の観点から保健師・助産師が観察した妊婦・産後女性の潜在的リスク特性を推定することを目的とした質的記述的研究である。社会的課題である児童虐待を防止するために、看護職がリスクを早期に発見するためのアセスメントスキルの向上を目指した看護職の対象者に対する主観的捉え方を抽出する内容であり、医療・保健・福祉の領域において意義のある研究である。本論文は、研究方法として実施した半構造化面接法において主観的捉え方のみに絞ることで研究の一貫性や結果の信憑性を高める必要性や研究題目と論旨の一貫性に課題は残る。しかしながら、過去に研究し現在運営している「妊娠中からの子ども虐待予防：妊娠中からの気になる母子支援連絡システム（岡山モデル）」を、更に発展させるための看護学の根拠や知識となり得る研究結果であることが想定されることから、本論文は博士後期課程の最終試験に合格したと判断した。